
LIFE STORY **たわいも無い、日常の1コマから～**

板郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

L I F E S T O R Y たわいも無い、日常の1コマから

【Nコード】

N 0 3 0 5 K

【作者名】

板郎

【あらすじ】

日常のありきたりなことを、文章にしてみました！
恋愛、仕事、生活・・・
極普通のことを書いてみました！

（前書き）

日常のありきたりなことを、文章にしてみました！
恋愛、仕事、生活・・・
極普通のことを書いてみました！

都会を流れる車を、ぼんやりと眺める p m 7 : 0 0。

21階からの景色は時間を忘れさせてくれる。

残業ばかりで疲れた体に、今日もまた疲れを積み重ねている。
いつのまにか自由に生きることが忘れて、

必死にもがいている自分に嫌気を感じている。

「別れよう」

メールの淡白な文章に涙も流れず、携帯電話の電源を切った。
会議用の資料を明日までに仕上げなければならない。

そして再びパソコンに向かう p m 8 : 0 0。

グラスにワインを注ぎ、傾けた時に君が見せた笑顔が
モニターの中に見える。

文字が少し滲んで見えて、ため息をついた p m 1 0 : 4 5。
出来上がった資料をプリントアウトし

冊子にしてパソコンの電源を切ったのは a m 1 2 : 2 5。

終電で誰もいない部屋に帰るころには a m 1 : 3 0。

閉めたはずの鍵が開いている…

中に入ると、彼女がやさしく微笑んでいた。

ワインを傾けた a m 2 : 0 0。

「今日はあなたの誕生日でしょ？おどかしたかったの。」

彼女を抱きしめて電気を消した a m 2 : 3 0。

そして…

2

流れ行く景色の中で 思うことが有る
過ぎ去る時間は取り戻せないが
やり直すことは出来るはずと

「貴方の夢は何ですか？まだ憶えていますか？」

つらい質問が君の口から問い掛ける

僕は 立ち止まって動けない

悲しいほど現実 is 厳しいと…

そんな時だから貴方にそばにいて欲しい…

流れる涙も

こぼれる笑顔も

貴方となら分かち合える

いつも僕だけに微笑んで欲しい

喧嘩をしても

最後には僕のそばにいて欲しい

「さよなら」

なんて言わないで

朝の目覚めに君を見て

眠る前にも君を見て

1日が過ぎていく…

そんな幸せな日々を

夢に見ていたよ
いつも いつまでも…

3

グラスを傾けている
二人きりのカウンター
ちょっとスローなスタンダードジャズが
店の中のブルーライトにマッチしている
しかし
曲は流れても
二人の時間は止まっているかのよう
たわいも無い日常の会話で
たまに見せる彼女の笑顔が
やさしく僕の瞳に映る

今でも眼を閉じると
セピア色の想い出が浮かぶ…

彼女の好きだったスターダストを横に
ドライマティーニをシェイクしてもらう
込み上げる涙を押さえる様に
グラスを空ける

一人で椅子を 今日まで温めている…

4

都会のノイズにかき消されて 彼方の言葉も聴こえない
もっとそばに近づいて 私の鼓動が聴こえるくらい
もっとそばに近づいて 私の胸が触るくらい
彼方の耳に そっと呟く

「愛してる」

彼方の胸に抱かれていたい
だから受け止めてよ

この想い

強く強く抱きしめて

「今夜は放さない」なんて ささやいて…

5

どれくらいの時間が過ぎただろう

まだ貴方の寝顔を眺めている…

二人で過ごして

泣いたり 笑ったり 怒ったり…

猫の目のように変わる表情

でも 今は違う

寝顔はいつまでも変わらない

その耳元にそつと囁く

…大好きだよ… あつ、笑ってる…

6

ヘッドライトの川を見つめる

毎日が歯車のように

規則正しく動いていく

自分を取り戻すための

たった一日の休みさえ

仕事を忘れることはない

いつの間にか

心に新鮮な風はなく

日常の苦痛だけが残る

逢えば けんかばかり…

涙も出ない程
気がつけば 荒んでいた…

7

想いは遙か

貴方を見つめ

切ない時間を過ごす

何も手につかず

涙が流れる…

貴方は今 何をしてますか？

まぶしい笑顔で 微笑んでますか？

自分の笑顔を取り戻すため

走りだそう 今すぐに…

そして 伝えよう

好きですと…

8

優しく抱きしめた君の温もりが

腕に残って忘れられない

愛しく想っていたのに

うらはらな態度

追えばまだ届く距離なのに

足が前に進まない

左の頬の痛みと流れる涙

でも君の涙に濡れた顔が

心に痛む

たった一言

ごめん

と言えなくて…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0305k/>

LIFE STORY たわいも無い、日常の1コマから～

2010年10月12日00時45分発行